

「長滝の六日祭」

おい か まつり

今年は白山開山1300年目を迎え、郡上市でもさまざまなイベントが開催されて大いに盛り上がりました。本特集では毎号、白山文化に関する博物館の展示などをご紹介してきました。最終となる今回は、来月に白鳥町の長滝白山神社で行われる「六日祭」と、白山文化博物館で公開している関連の文化財をご紹介して締めくくります。

■古い歴史をもつ長滝の延年

毎年1月6日、白鳥町の長滝白山神社で「六日祭」が行われます。雪が降り積もり、たくさん参拝者が見守るなか、拝殿では優雅な延年の舞が奉納されます。延年とは本来「寿命を延ばす」というおめでたい意味ですが、平安・鎌倉時代に奈良や京都の大寺院で行われる歌や舞などの芸能を指すようになりました。



▲六日祭で奉納される延年の舞

長滝の延年の始まりは、はっきりしていませんが、今から7800年前の鎌倉時代の頃と考えられています。各地では延年が次第に消えていくなかで、長滝の延年は今日まで受け継がれてきました。

白山文化博物館では、延年で使われた「古楽面」や「狩衣」などの文化財を公開しています。白洲正子さんが紀行エッセイの『かくれ里』で、長滝の歴史や文化の魅力をたくさん語っておられます。その中で「うぶな彩色が美しい」と称賛された「若女」の古楽面も、かつては延年の舞で使われた一つでした。



▲若女の古楽面 (鎌倉時代・長滝白山神社蔵)

■勇壮な花奪い

拝殿の壇上で延年の舞が続くなか、参拝者たちの間では「花奪い」が始まり、掛け声と歓声があがります。拝殿の高さ6メートルの天井に吊るされた桜・菊・牡丹・椿・芥子の5つの大きな花笠を目標として「花奪い」が行われます。若者たちは3つぎ半の人梯子を組み上げ、花を目標しますが、何度も崩れます。歓声の中で花笠に飛びついた若者が花を落とします。人々は花に群がり、激しく奪い合います。奪い取った花は、家族の平穏や豊作を願う縁起物として大切に持ち帰られます。このように花



▲蝶梅文様があざやかな延年の狩衣 (江戸時代・長滝白山神社蔵)



▲勇壮な拝殿での花奪い

を奪い合うことから「六日祭」は「花奪い祭」とも呼ばれます。

■これからの美濃馬場・長滝

白鳥町長滝は、養老元年（717）に奈良時代の高僧・泰澄大師が白山を開山時に、この地に今の長滝白山神社や長瀧寺を開き、白山信仰の拠点「美濃馬場」として栄えました。来年は道の駅白鳥が改修工事を終え、隣には清流長良川あゆパーク」がオープン予定です。美濃馬場の振興に大きな期待が寄せられています。白山開山1301年目に向けて郡上市がますます発展し、来年もみなさまに良い年であるよう願っております。

白山文化博物館のご案内



開館時間 午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まで）
休館日 火曜日
場所 白鳥町長滝 402
料金 大人 310円 小中学生 100円
お問い合わせ 白山文化博物館（☎85 - 2663）
教育委員会社会教育課（☎67 - 1128）